

角館の武家屋敷における樹木と町並みの景観形成の関係性に関する調査

システム科学技術学部 建築環境システム学科 1年 鈴木美有
指導教員 システム科学技術学部 建築環境システム学科 李雪

1. 目的

日本の伝統的な民家は、自然と調和した建築様式を重視しており、季節に合わせた美しい景色を楽しめるよう、民家の敷地内に樹木がよく植えられる。これらの樹木は、庭の重要な構成要素であり、集落や町並みの景観形成にも影響を与えている。そこで本研究は、秋田県仙北市角館における武家屋敷を対象に、樹木と建物、そして町並みの景観形成の関係性を分析することを目的とする。

2. 研究方法

現地調査と資料分析を用いて分析を行った。流れは以下の通りである。

- ① 秋田県内における伝統的な民家（図1、図2）を見学し、樹木と建物及び町並みの関係の特徴を把握する。見学の詳細は表1で示す。

表1 見学の日程と対象地

日程	場所	民家の種別	文化財の指定等
2022年7月7日	由利本荘市矢島土田家住宅	農家	国指定重要文化財
2022年10月17日	横手市増田町	町家	重要伝統的建造物群保存地区 ^{注1)}
2022年11月5日	仙北市角館町	武家屋敷	重要伝統的建造物群保存地区



図1 土田家住宅の外観



図2 増田町の町家の外観

- ② ①の調査結果に基づき、角館の武家屋敷を研究対象に選定し、町並みの景観形成を観察し、写真撮影した。
- ③ 角館における小野田家、河原田家、岩橋家、青柳家（以下：4家）の平面図を用いて樹木の種類、本数、分布特徴等を可視化し、特徴を分析した。
- ④ ③の分析結果に基づき、角館の武家屋敷における樹木と町並みの景観形成の関係性を考察した。

3. 角館重要伝統的建造物保存地区の景観特徴¹⁾

角館は昭和51年9月4日に重要伝統的建造物保存地区に選定され、深い木立ちと黒板塀がつくる重厚な屋敷構えで知られている。屋敷構をした旧武家屋敷が残り、今日も武家地としての特性が維持されている。道路に沿った並木がつくる深い木立ちとともに良好な環境を形成している。

角館は藩政期の屋敷割の姿がよく残され、歴史ある武家屋敷と桜並木が美しいことから「みちのくの小京都」と呼ばれ、春は桜の名所、秋は紅葉の名所でもある。



図3 秋田県仙北市角館町の位置

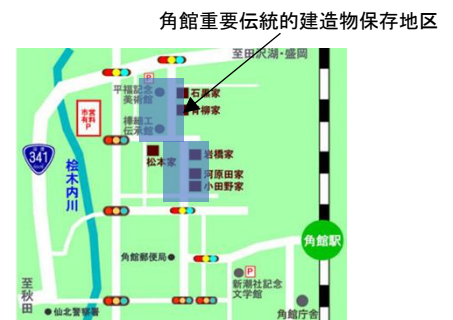


図4 角館重要伝統的建造物保存地区の位置²⁾

4. 角館の樹木

樹木群は藩政期に植え込まれた。屋敷囲いや防火性としての目的が強い。威厳を誇るために太く、背が高いものが選ばれている。シダレザクラは京の出であり、京を偲んだ心情を反映させたものである。樹齢百年以上のものの162本が国の天然記念物に指定³⁾。カシワやカツラなど屋敷ごとに特徴を持たせ、各屋敷とも一つのシンボルとして自分だけの樹木を植え、豊かな心を楽しんだとされている。

5. 4家の樹木の総まとめ⁴⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾⁸⁾⁹⁾

小野田家、河原田家、岩橋家、青柳家の平面図を用いて4家の全樹木（計218本）の種類をまとめ

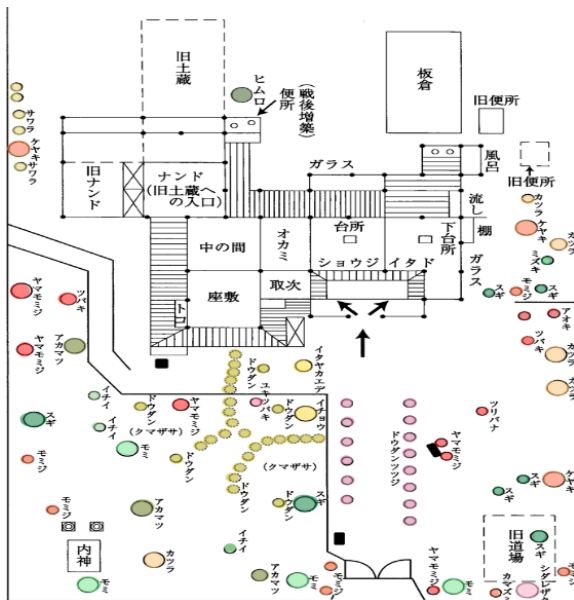
た。角館は植物により四季折々の姿を見せている。樹木が町並みの景観形成との関係性を考察するため、樹木の見所で季節に分けて整理した。

表1 全樹木の種類と特徴

年間		春	
アオキ	常緑広葉樹の低木。メスの木のみ実がなる。半日陰地に植えられる。	梅	樹高は10mに達するが、3~5m程度で管理され、古くから花、香り、果実の3拍子揃った春を告げる落葉花木として全国各地で植栽され広く親しまれている。
赤松	東アジアの山地を原産とするマツ科の常緑針葉樹。樹高は30mから40m以上になる。	オンコ	成木になれば10~20mの高木になる。
イチイ	東北や北海道では生垣に使われている。目立たないが3~4月に花を咲かせる。	桐	樹高8~15m、直径は最大50cmほど。花が荘厳で高貴な色とされ、宮廷の庭園や貴族の屋敷に植栽され、紋様や紋所のモチーフとされた。
カキ	落葉の小高木で、高さは4 - 10m。花期は初夏で、果期は秋から初冬。	サツキ	常緑広葉樹の低木。葉は互生し、葉身は長さ3cmほどの披針形。開花期は5 - 7月。ツツジよりも1か月ほど遅く花が咲く。
カシワ	落葉広葉樹の高木で、樹高は10 - 15m。花期は晩春から初夏で果期は10 - 11月。	枝垂桜	樹高は8m以上に育つ高木、花は一重咲きの小輪で淡紅色。
ケヤキ	落葉広葉樹の樹高が20~30mの高木。10月頃に果実が熟す。	ツツジ	ツツジ属の植物は低木から高木で、葉は常緑または落葉性で互生、果実は蒴果。
コウヤマキ	常緑高木で、高さ30 m以上、直径1 mに達するものがある。特に手入れをしなくても狭円錐形の非常に整った樹冠を形成するため、造園木として重宝される。	ドウダンツツジ	落葉広葉樹。低木で、大きくても3m程。寒冷地でも耐えるが、関東以西の温暖な地に多く植えられる。
ゴヨウ松	日本固有種。樹高は30mから35mになるが、成長は遅い。	ユキツバキ	東北の奥羽地方から山陰地方の日本海側に自生する椿の1種。雪解け時の4~6月に開花する。
サワラ	常緑針葉樹の高木。樹高は30 - 40m、胸高直径は100cmになることもある。	夏	
山椒	落葉広葉樹の低木で、樹高はおおよそ1から5m程に育つ。	オオテマリ	花が大きく鞠のようにまとまってつき、横に大きく枝を広げ3~4mまで成長する。
杉	明瞭な主幹を持ち樹形は円錐形。樹形は細長く直立し、高さ50 mに達するものもある。最大樹高は60m。	ユリノキ	落葉広葉樹の高木であり、生長が早く、高さ20から30m、胸高直径50から100cmになる。
ハコネウツギ	落葉広葉樹の低木から小高木で、高さ4mになる。樹形はよく株立ちするが、老木になると主幹が太くなり、上方で枝がよく生い茂る。	秋	
ヒノキ	樹木の直径は1m程度にまで成長し、建築材として非常に有用な木。	イタヤカエデ	日本で最も大きくなるカエデ。高さが15~20mで大振りである。
ヒムロ	常緑針葉樹の高木で樹高は5~10m。葉はクリスマスのリース等に使われる。	イチヨウ	樹高20~30 m、幹直径2mの落葉高木。街路樹など日本では全国的によく見かける樹木。
松	東アジアの山地を原産とするマツ科の常緑針葉樹。樹高は30mから40m以上になる。	カツラ	秋に黄葉して落葉した葉はよい香りを持つ。樹形の美しさから庭木や街路樹にされる。樹高は20mから30mほど。
ミズキ	ハナミズキの仲間、高さは15~20m。扇状の枝が階段のように生じる姿は特徴的。	カマズミ	落葉広葉樹で樹高が2~5mの低木。初夏に開花し、秋には果実が赤く熟す。
モミ	常緑針葉樹の高木。樹高は30m以上、幹径は1.5 m以上にも達するものもある。樹形は端正な整った円錐形で、枝はほかのマツ科針葉樹と同じく同じ高さから四方八方に伸ばす(輪生)。	クリ	幹は直立し15~17mになる。秋に熟すと茶色になり、殻斗が割れて種子がこぼれる。
		ツリバナ	落葉広葉樹の高さが1~6mの低木。5~6月に開花し、9~11月に果実が出る。
		モミジ	葉の切れ込みが深いものをモミジと呼ぶ。世界におおよそ130種が存在する。
		ヤマモミジ	イロハモミジの園芸品種で、カエデとも呼ばれる植物。
		冬	
		ツバキ	常緑性の低木から小高木で、普通は高さ5から10m前後。高いものでは樹高15 mにもなる。成長は遅く、寿命は長い。

6. 各家の樹木の特徴

6-1 小野田家⁴⁾



年間	種類	本数	計
	ユキツバキ	1(本)	
春	アオキ	2(本)	計: 93本
夏	オオテマリ	1(本)	
秋	イタヤカエデ	1(本)	
冬	ツバキ	2(本)	
不明	枝垂桜	1(本)	
不明	ドウダンツツジ	14(本)	
不明	ドウダン	27(本)	



左: 図5 小野田家の平面図
 右上: 表2 小野田家の樹木の凡例
 右下: 図6 小野田家の入り口とドウダンツツジ

小野田家は中級程度の武士の家屋構造であり、笹を一面に植え込んだ庭が風情をかもし出している。4家の中で最も樹木が多く（93本）植えられており、ドウダンとドウダンツツジが屋敷の入り口を導くように2列に整理されているのが特徴である。春（3種類16本）と秋の時期（7種類21本）の樹木が多く植えられているため、一年を通して楽しめる景色を形成した。道路側や境界線沿いは整頓されているが、他の家よりも色とりどりである。座敷から見る樹木は多くはないが、年間の樹木（杉、檜、アオキ等）が多く植えられている。シンボルツリーはドウダンとドウダンツツジである。

6-2 河原田家⁵⁾



左：図7 河原田家の平面図 右上：図8道から見た河原田家 右下：表3河原田家の樹木の凡例

河原田家は藩政時代の建築を踏襲し、細部にわたり様式に古い形が見られる。座敷はこの地方の書院造りの伝統的な様式を残している。樹木の本数は計55本で特別多いわけではないが、種類が19種類で豊富だと分かる。春の樹木が本数（17本）と種類（8種）が多い。敷地を囲う塀の高さは人の身長程度だが、赤松の樹高は30~40m、オノコは10~20mであるため、図5の赤い円より、薬医門の南にある赤松やオノコが屋敷と道路との仕切りの役割を果たしていると考えられる。道路側に梅やモミジが植えられているので、敷地外からの景色もよい。座敷の周りの方が道路側より多く梅やモミジが植えられている。座敷から眺めた方がより美しいため、家からの眺めに重きを置いていると考えられる。河原田家のシンボルツリーはコウヤマキ。

6-3 岩橋家⁶⁾

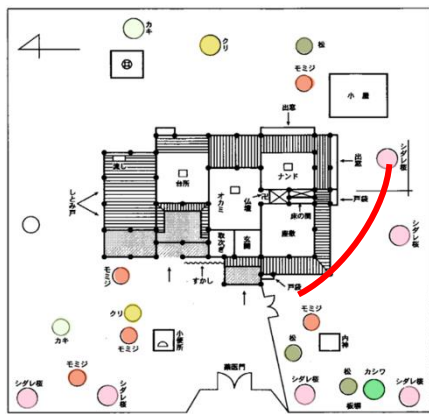


図9 岩橋家の平面図



図10 岩橋家のシンボルツリー

年間	年間	
カキ	2(本)	
カシワ	1(本)	
松	3(本)	
春	春	
シダレ桜	6(本)	
秋	秋	
クリ	2(本)	
モミジ	5(本)	
計	19本	

表4 岩橋家の樹木の凡例

岩橋家は切妻形の木羽葺(こばぶき)屋根で、中級武士の家屋として典型的な形を残した簡素な佇ま

いである。樹木の数 は 19 本と 4 家の中で最も少ないが、1 本 1 本に見どころがある。春にはシダレ桜、秋にはクリとモミジが見られることから、季節を感じる事が出来る。道路側と敷地の境界線にシダレ桜が満遍なく植えられているため、道路から家を見る方が綺麗だと考えられる。モミジの樹高は 10m、松は 30~40m である。モミジと松の 2 本はシダレ桜よりも樹高が高いため、座敷からはモミジと松が見られる。シンボルツリーはカシワ。

6-4 青柳家⁷⁾

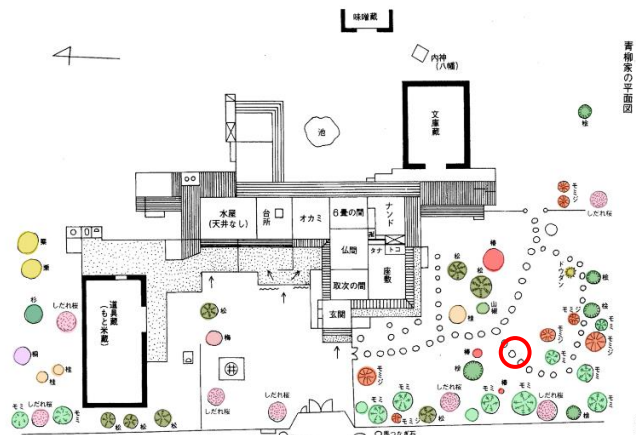


図 10 青柳家の平面図
(右下の赤丸は図 10 の撮影位置を示す。)



図 11 庭の様子

表 5 青柳家の樹木の凡例

年間				
			●	しだれ桜 7(本)
●	山椒 1(本)	秋	●	桂 3(本)
●	杉 1(本)		●	クリ 2(本)
●	ヒノキ 5(本)		●	モミジ 7(本)
●	松 7(本)	冬	●	椿 3(本)
●	モミ 12(本)	春	●	不明
●	梅 1(本)		●	ドウダゲン 1(本)
●	桐 1(本)			
				計 51 本

角館町で最も格式をもち、豪華な造りを見せている。格式と威厳をもった薬医門を構えている。樹木の数 (51 本) は河原田家と似ているが、種類 (13 種) は比較すると少ないことが分かる。青柳家は年間の樹木が半分を占めているため、緑が多いことが特徴的である。道路側や隣との境界線に樹高の高いモミや松が植えられており、目隠しとなっている。座敷からモミジが見える。周囲は緑が多いので、モミジの赤が映える造りとなっている。シンボルツリーは杉だと考えられる。

7. まとめ

4 家を樹木の数から考えると各家により差が大きくあるため、本数に統一感はないことが分かった。しかし種類は大きな差がなかったように感じられる。松と枝垂桜、モミジは 4 家に共通して植えられている。樹木は道路沿いと隣の家との境界線に植えられているが、種類は家によって異なった。樹木の配置から、敷地の外側からは桜が、座敷からはモミジが見られる構成がとられていることが分かった。

注：

- 1) 伝統的建造物群保存地区は、文化財保護法第 143 条第 1 項または第 2 項の規定により、周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値が高いもの (伝統的建造物群)、およびこれと一体をなしてその価値を形成している環境を保存するため、市町村が地域地区として都市計画もしくは条例で定めた地区である。その中、特に価値の高いものを国が重要伝統的建造物群保存地区として選定する。

(参考:文化庁伝統的建造物群保存地区 <https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/hozonchiku/>)

参考文献

- 1) . 文化庁 平成 27 年 「歴史と文化の町並み事典 重要伝統的建造物群保存地区全 109」 中央公論美術出版
- 2) . https://www.city.semboku.akita.jp/sightseeing/spot/07_buke.html
- 3) . 秋田県仙北市教育委員会 平成 24 年 「図録・角館の武家屋敷」
- 4) . 林正崇 平成 23 年 「角館の武家屋敷 河原田家」 仙北市教育委員会
- 5) . 林正崇 平成 26 年 「角館の武家屋敷 岩橋家」 仙北市教育委員会
- 6) . 林正崇 平成 20 年 「角館の武家屋敷 青柳家」 仙北市教育委員会
- 7) . <https://www.uekipedia.jp/>
- 8) . <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>